

清水市

地形概況

興津川流域庵原山地・有度山丘陵・三保砂嘴・巴川低地海岸にそう数列の砂堆と堤間地、興津川にそう河岸段丘などからなる。清水港を囲む湾岸の人工改変は埋め立て盛土の造成である。興津川上流支谷は土石流堆積物が多く穴原は山間盆地といえる。

地質概況

西から竜爪層群の粗面岩類、静岡層群の砂岩泥岩互層や礫岩、和田島層群の砂岩・泥岩・礫岩、風化のすすんだ砂泥岩互層の小河内層群などが南北方向の帯状構造をもって分布する。沖積地は砂層・泥層と地域差が大きく有度山は砂礫層からなる。

気象概況

年平均気温は 15.8°C、年平均降水量が 2,491mm(興津中町)、典型的な表日本型の気候で、冬季は温暖で穏やかな晴れの日が続く。降雨は県内の沿岸部の中でも多いほうであり、特に梅雨から夏季(4月から8月)に全降水量の約50%の雨が降る。

災害事例 地震

- 1965年4月20日(昭和40年) M=6.1
清水平野北部で被害が大きく、梅ヶ谷・押切・下野・原等では壁の破損、瓦の墜落、土台の破損、柱の移動などがあり、その他小学校・病院・市庁舎などにも同様の小被害があった。清水港の岸壁背後の天盤が約120mに渡り最大27cm沈下した。清水市役所・庵原中学校(いずれも鉄筋コンクリート造)のはめころしの窓ガラスが割れた。全体で死者2人、負傷者4人。
- 1944年12月7日(昭和19年) 東南海地震 M=7.9
県西部で被害が大きかったが、中部では当地の被害が目立って大きい。辻では全壊110戸、半壊205戸、江尻では全壊51戸、半壊139戸、入江では全壊105戸、半壊142戸、岡では全壊233戸、半壊420戸、清水では全壊233戸、半壊317戸、不二見では全壊105戸、半壊171戸、駒越では全壊3戸、半壊1戸、三保では半壊8戸で、これらの地域あわせて、死者19人、重傷26人、軽傷85人を出した。また興津でも全壊39戸、半壊52戸となっている。各地の震度は地盤によって著しく異なっていて袖師・清水(辻・江尻・入江・岡・不二見)では6、興津で5~6、紺屋町・三保で5、豊原町で4となっている。
- 1935年7月11日(昭和10年) 静岡地震 M=6.4
有度山の周囲、特に有度山塊西縁および西南端付近がひどかった。また、有度山塊の南部で崖崩れが多かった。家屋全壊率は辻・入江で1.6%、江尻で1.4%、清水港の岸壁と倉庫が大破した。井戸水の水位の変化が認められ、震央付近で地鳴りが聞こえた。
- 1917年5月18日(大正6年) M=6.3
局地的な強震で全体で死者2人(防火壁の倒壊による)負傷者6人で、清水・江尻で

も煉瓦塀・煉瓦煙突などの小被害があった。

- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下で被害を生じた大地震で、興津では新屋敷より中宿まで皆潰、清見寺は仏殿・塀大破し、総門が折れた。江尻では死者21人、潰家120戸、焼失464戸、大破85戸、清水では死者56人、潰家33戸、焼失705戸、三保では三保明神の本殿・拝殿・神主家は無事であったが、村内の家2〜3戸つぶれた。中河内では山崩れで死者4〜5人大内村で潰7戸、大破17戸、能島村で潰4戸、大破7戸、長崎村で潰1戸、大破6戸、長崎新田で潰4戸、大破22戸、谷田村で大破6戸、中之郷村で潰3戸、大破5戸、草薙村で大破29戸、一里山村で大破6戸などを生じた。また薩垂峠下の海岸が隆起して波が1町ほど先へ打よせるようになった。各地の震度は興津中・清水・下清水・北矢部・宮加三で7、興津・興津東・三保・村松・長崎新田で6〜7、興津井上・江尻・入江・上清水・能島・大内・草薙・中之郷で6、小島・谷津・八木間・興津清見寺・長崎・南矢部・駒越で5〜6、小河内・清地・庵原・今泉・中河内で5などとなっている。
- 1841年4月22日（天保12年）M=6 1/4
江尻・清水辺で家や蔵の壁落ち、地裂けて水を噴き出す。三保の松原の砂地2,000坪(66ha)ほど沈下するという。神明神社石灯籠折損、その他の被害もあった。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4
清見寺の方丈が傾き、壁・障子残らず破損し、鐘楼の石垣も崩れた。興津・江尻宿は過半数潰家となり、清水湊の波除石垣も大破した。三保では御屋敷の大家ゆりつぶれ村々の内2戸がつぶれた。また吹合より真崎の間が震動で沈んだ、各地の震度は江尻で6〜7、村松・向嶋で6、三保・袖師・清見寺・興津で5〜6と推定されている。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震 M=8.2〜8.4
この時の地震で村松にあった海長寺の諸堂・大坊、中ことごとく破損したといわれており、入江・袖師など駿河国一円大地震があったと伝えられている。村松で震度は6である。

災害事例 津波

- 1960年5月24日（昭和35年）チリ地震津波
南米、チリ沖の大地震による津波で、日本中の太平洋岸に被害を与えた。当地では貯木場の防波堤を越え、貯木場の杭180本のうち130本がうき、10万本あった材木が3m/sぐらいの速さで流出した。津波の高さは1.3m位で、干満の差は3mに達した。
- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震津波
三重県下には大きな被害があったが、当地では陸上への浸水はなく、川の水が上下した程度で、津波の高さは2mあるいはもっと小さかった。

- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震津波
清水では向島を越え、大船の破損多く、漁船小舟は押流された。また三保では吹合より真崎まで入り込み、津波の浸水深さ3～4尺になった。各地の津波の高さは興津で3m、江尻で4.2m、入江で5.7m、清水で3～2.5m、折戸で2m、三保で3.1～6mである。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震津波
三保では村中が海となり、村民は御宮へ避難した。清水では向島の松の木にイルカがかかったといわれる。津波の高さは三保で4～5m、江尻で3m、清水で4m、興津は2～3mと推定されている。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震津波
袖師・入江など駿河国が大地震で、瀬海の諸村は海嘯の災を受けたといわれている。また海長寺の諸堂・大坊ことごとく破損とあるが、津波によるものか地震によるものか不明。津波の高さは村松で5～6mと推定されている。

災害事例 高潮

- 1953年9月25日（昭和28年）台風13号
高潮で床下浸水250戸を出した。他に全壊3戸、半壊2戸、流失4戸。
- 1611年8月14日（慶長16年）
村松三ツ山の御関船蔵へ水がつき、御殿の内の御船が浮き出した。また三保見島の御浜御殿の富士見櫓も過半損傷した。風は東風で、三ツ山の小浜民部屋敷も損傷したなどの記事が残っている。

災害事例 台風

- 1982年9月12日（昭和57年）台風18号
県中部を中心に全県下に被害あり、清水市馬走で山崩れにより、2戸の住宅が全壊し、死者3人、負傷者1人。床上浸水787戸、床下浸水1,398戸の被害がでた。
- 1974年7月7日（昭和49年）台風8号(七夕豪雨)
全県下に被害あり、清水では死者4人、全壊3戸、半壊18戸、床上浸水6,368戸、床下浸水9,931戸、田畑冠水14ha、決壊道路51箇所、橋梁26箇所、堤防3箇所、山崩167箇所などの被害があった。
- 1828年8月10日（文政11年）
連日大雨、富士川決壊。

災害事例 豪雨

- 1987年8月5日（昭和62年）
県中部を中心に被害あり、清水市内では各所で小河川や排水路があふれ、床上浸水60戸、床下浸水580戸の被害がでた。
- 1964年6月28日（昭和39年）
平野部と河川中流部で豪雨あり、当地では浸水被害床上233戸、床下1,936戸、冠

水田畑 53ha を出した。

- 1941 年 7 月 12 日 (昭和 16 年)

県下全般に大雨で、清水では死者 6 人、負傷者 3 人、全壊 5 戸、半壊 1 戸、流失 1 戸、床上浸水 150 戸、床下浸水 1,390 戸などの被害があった。

災害事例 竜巻

- 1908 年 9 月 30 日 (明治 41 年)

29 日四国の南海上に発生した低気圧は遠州灘より上陸し、駿河湾北部を通過した。30 日 1 時ごろ駿河湾に竜巻が発生し、安倍郡不二見村駒越の海岸に襲来した。駒越の海岸につないであった漁船 12 隻をまき上げ、12 人が重軽傷を負った。たつまきは更に同郡三保村折戸を襲い 13 戸を破壊し、屋根がわらを吹き飛ばし被害は多かったが、その間わずか 2~3 分に過ぎなかった。

災害事例 旱魃

- 1852 (嘉永 5 年)

嘉永 5・6 年と大旱魃が続き、年貢の減免などがあったが農民は非常に苦しんだ。